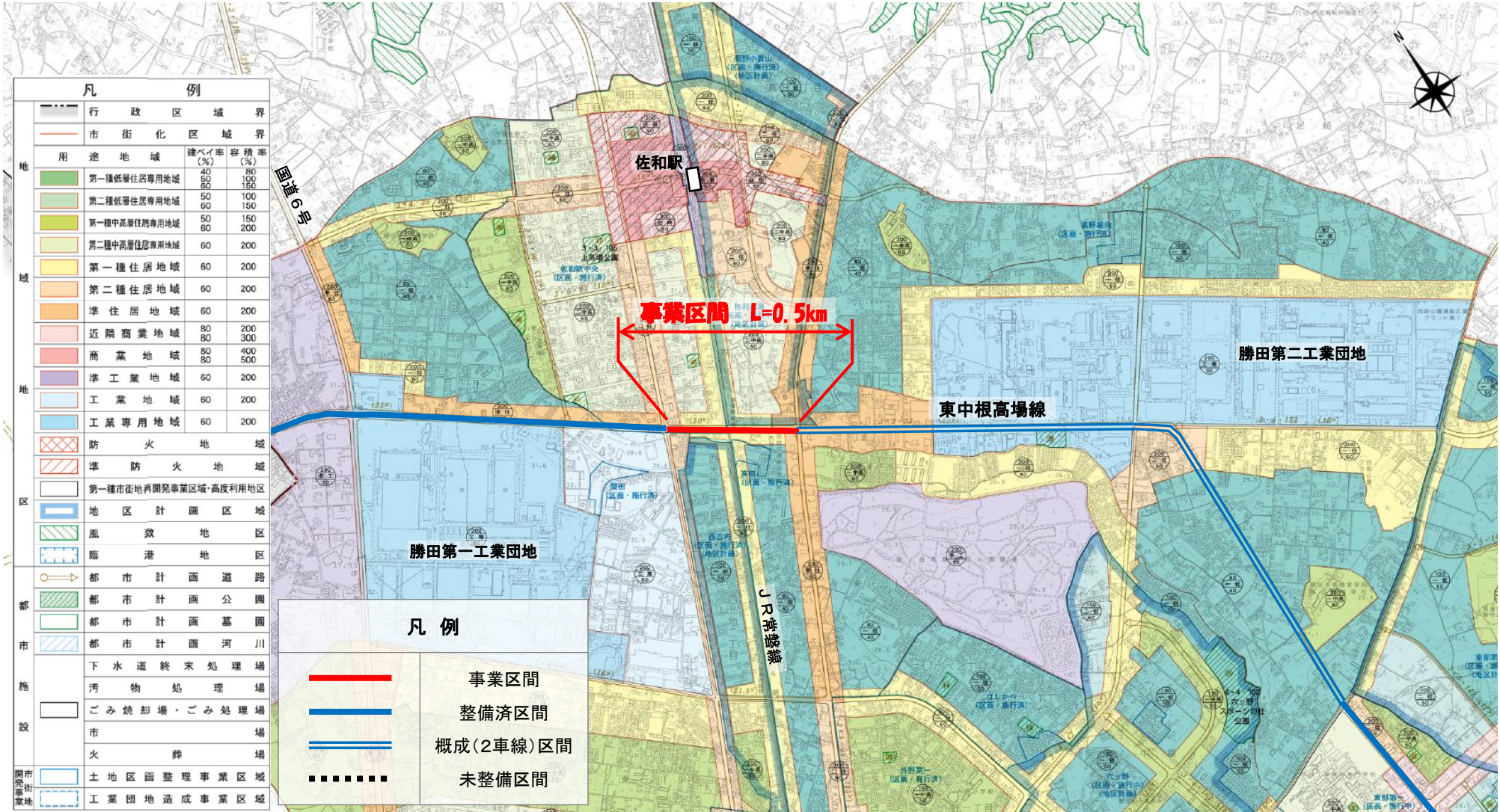


事業概要

応募No.	8		
事業主体	茨城県ひたちなか市	事業箇所	茨城県ひたちなか市高場二丁目ほか
応募者名	茨城県ひたちなか市		
ふりがな 事業名称	としけいかくどうろ ひがしなかねたかばせんせいびじぎょう 都市計画道路 東中根高場線整備事業		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業は、水戸市や那珂市を結ぶ広域環状道路であり、常磐自動車道や国道6号と茨城港常陸那珂港区を有し新たな工業団地の造成が進められている「ひたちなか地区」とのアクセス性向上に資する、市民生活や地域産業を支える重要な都市計画道路として、平成30年に事業認可を取得し、JR常磐線を立体交差する高場陸橋区間の4車線化を実施したものである。</p> <p>東中根高場線は、常磐自動車道那珂IC方面から、本事業区間である高場陸橋手前までは4車線化されているものの、本事業区間が2車線に絞られていることから、鉄道横断部周辺において交通渋滞が日常化しており、市民生活や近隣に立地する日立製作所関連企業の経済活動への影響が喫緊の課題となっていた。</p> <p>本事業区間の整備により、渋滞緩和に伴う自動車交通の円滑化や生活道路の通過交通減少による安全性向上のほか、災害時の救急活動や緊急輸送に資する防災性の向上など、地域の発展に大きく寄与した。</p>		
事業規模	事業延長(km)	約0.5km	
	幅員(m)	30m	
	事業期間(和暦)	平成30年度～令和6年度	
	事業費(億円)	約20億円	
受賞歴	有・無	無	
URL	https://www.city.hitachinaka.lg.jp/machizukuri/toshikeikaku/1004838/1004845.html		

都市計画図(用途地域図)

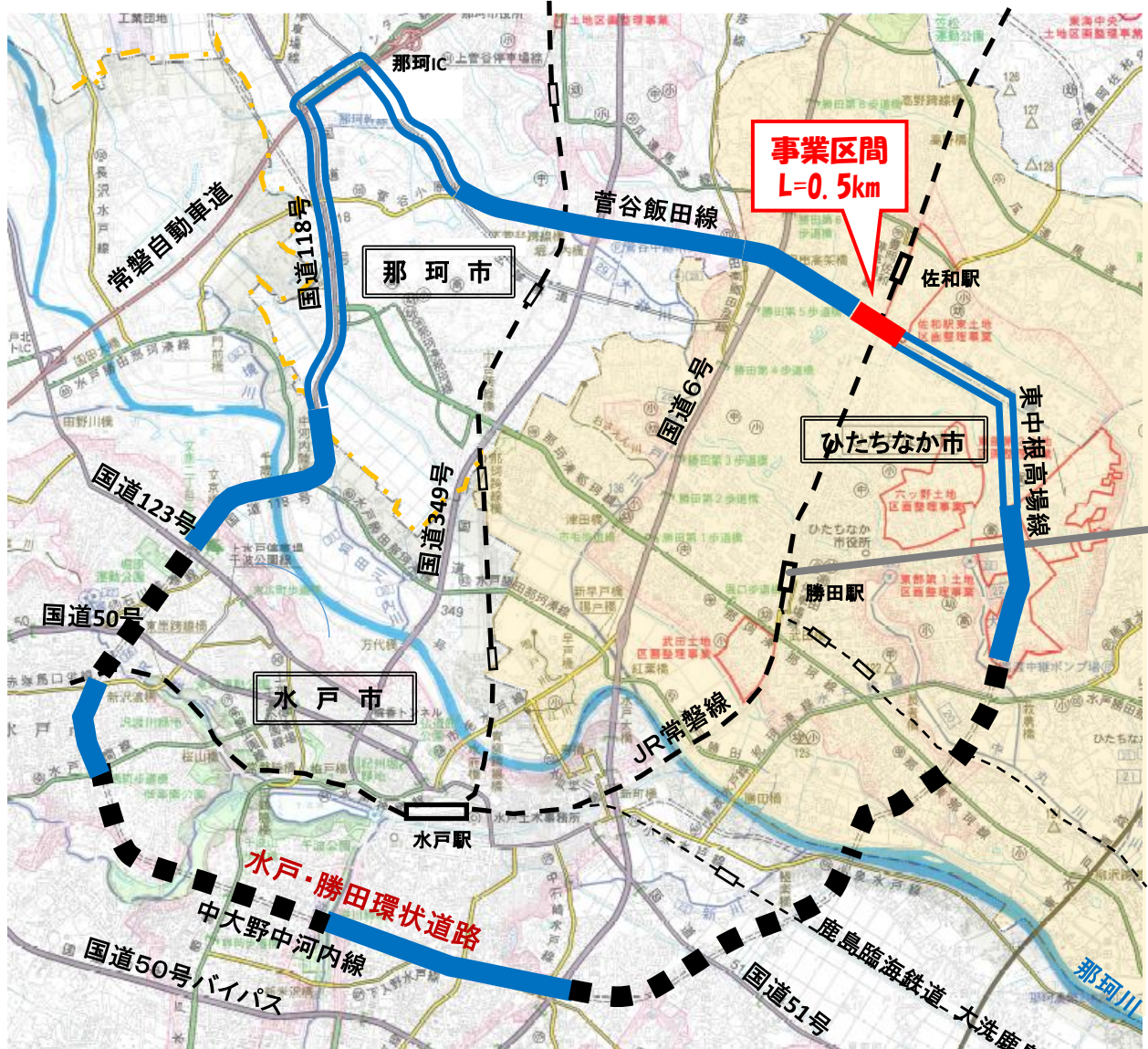


路線全体の進捗状況

【水戸勝田環状道路の概要】
 水戸勝田環状道路は、本市の「東中根高場線」と水戸市の「中大野中河内線」、那珂市の「菅谷飯田線」それぞれの都市計画道路で構成される総延長約39km、4車線の幹線道路であり、交通の円滑化や地域間の連携強化を図るため重要な役割を果たすことが期待される広域的な路線である。

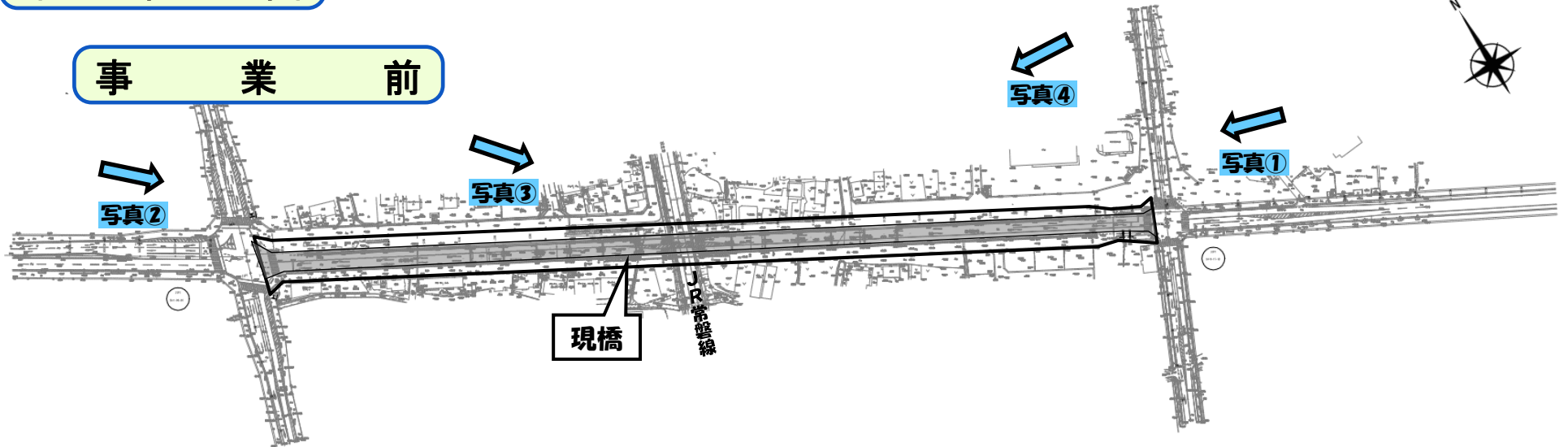
【東中根高場線の整備状況】
 計画延長：9.6km
 完成延長：3.8km
 概成延長：2.8km
 未整備延長：3.0km
 整備率：68.6%

凡例	
	事業区間
	整備済区間
	概成(2車線)区間
	未整備区間

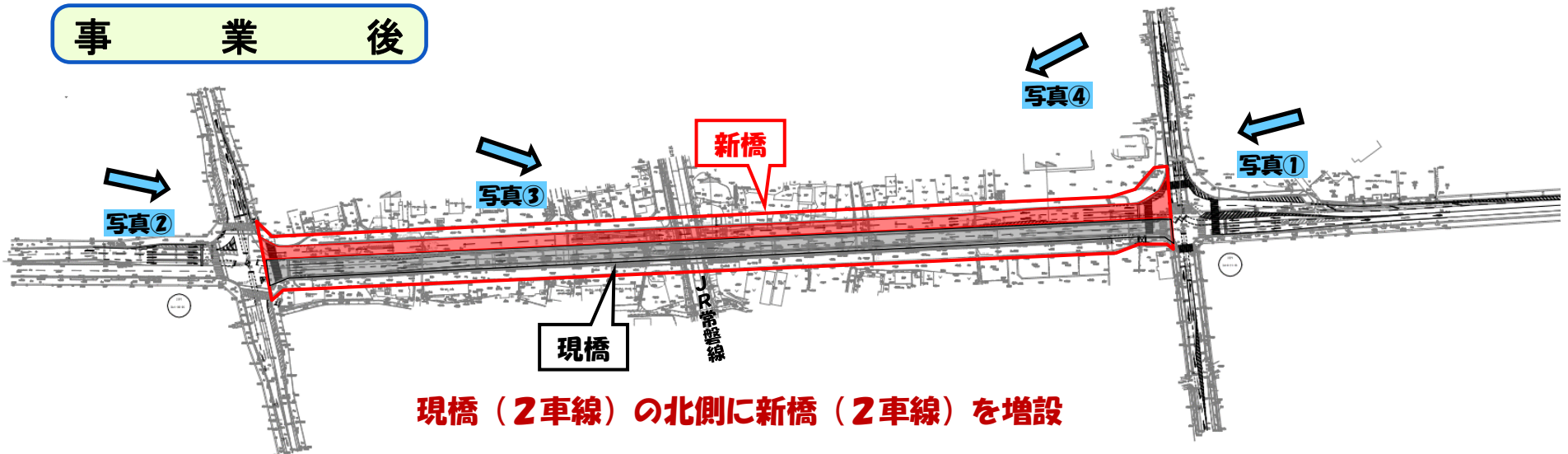


平面図

事業前

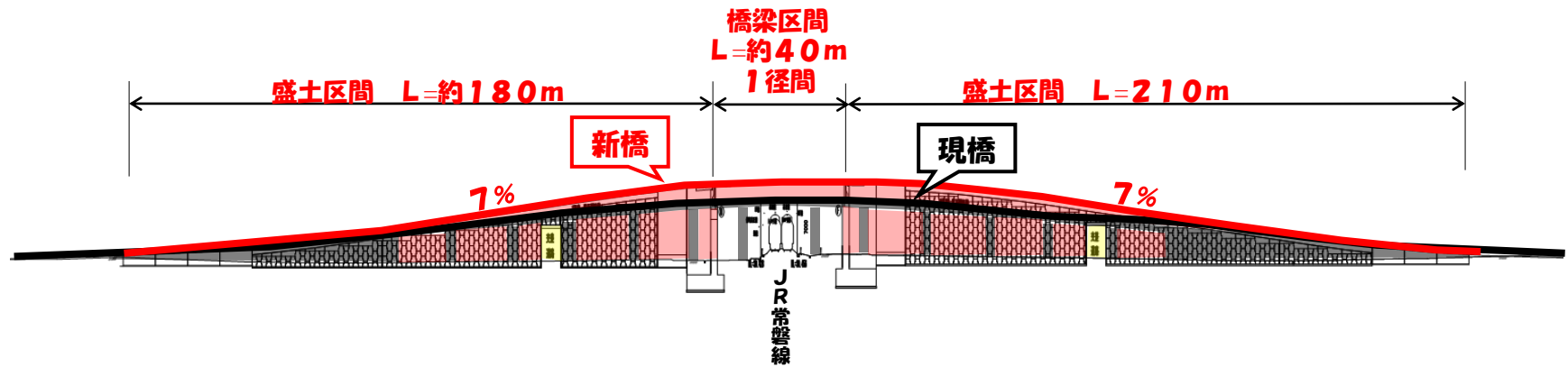


事業後

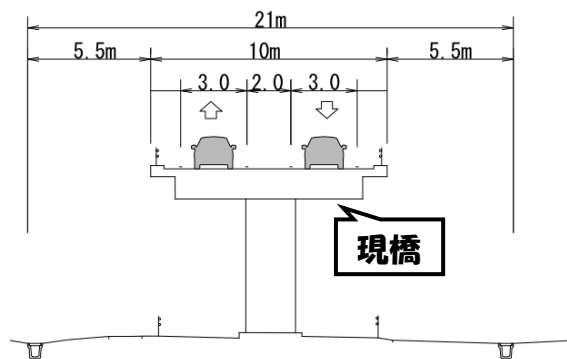


現橋（2車線）の北側に新橋（2車線）を増設

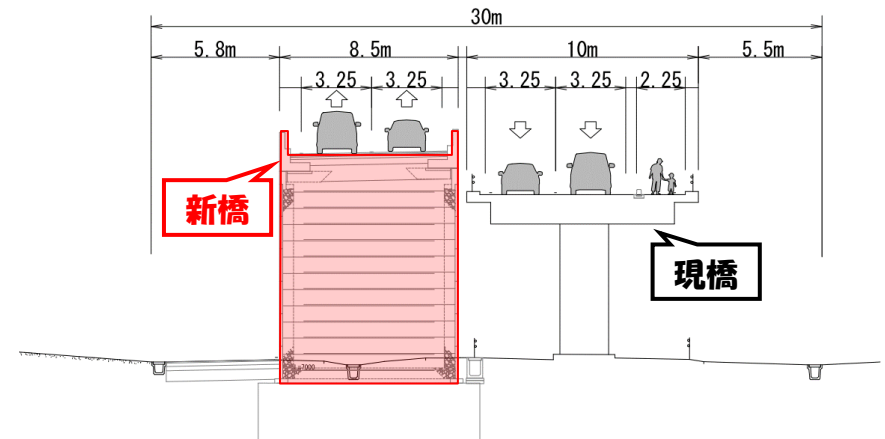
縦断図・横断図



事業前



事業後



事業前写真



事業後写真

ひたちなか市：(都)東中根高場線



事業前写真



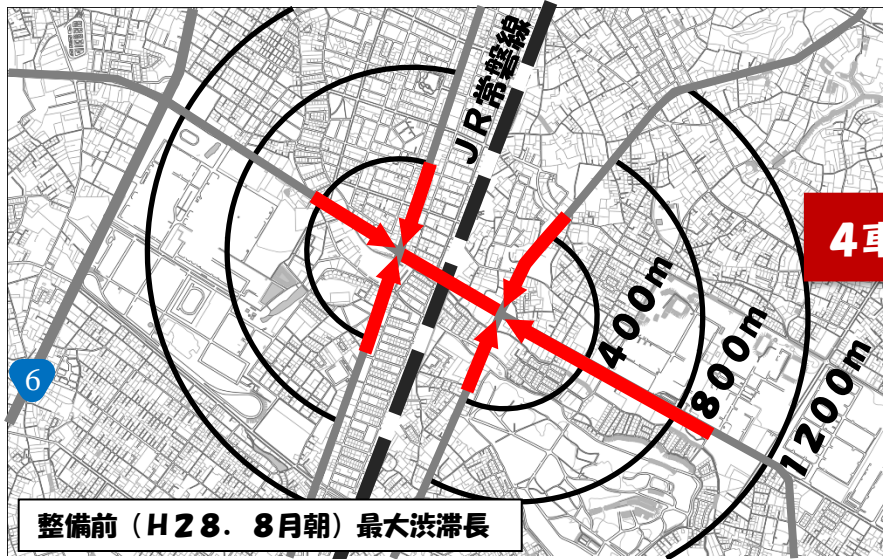
事業後写真

ひたちなか市：(都) 東中根高場線

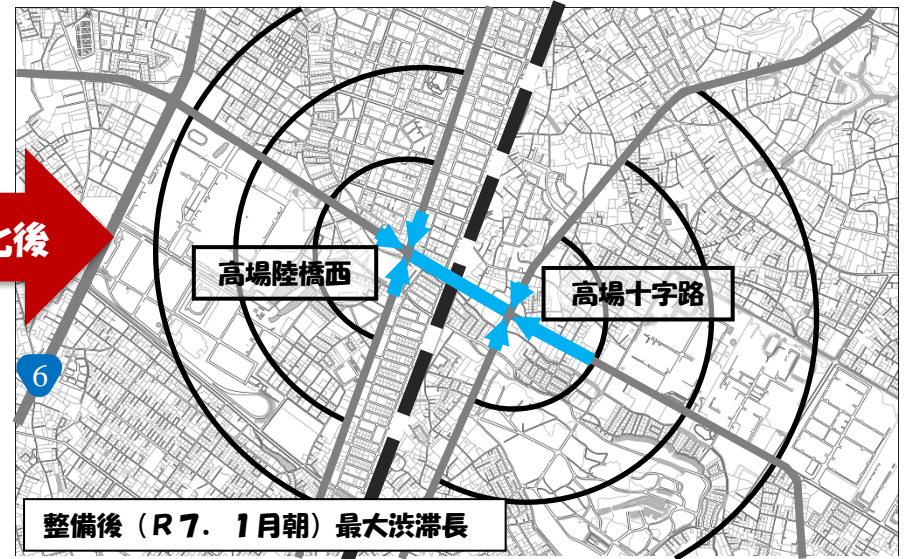


事業効果アピール資料

【整備効果①】大きく緩和した交通渋滞

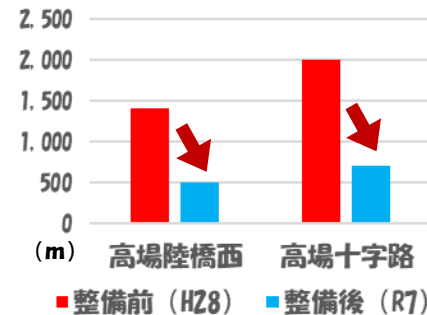


4車線化後



鉄道横断部に向かう車線で渋滞する東中根高場線 (平成30年5月撮影)

最大渋滞長が約7割減

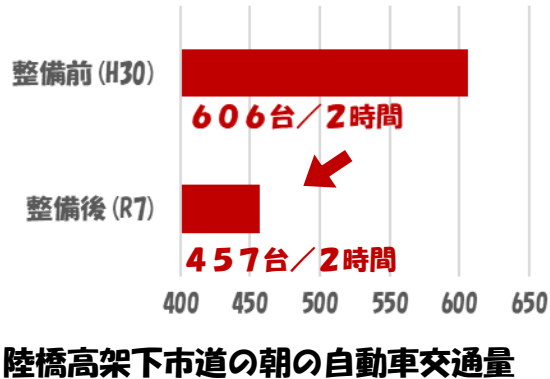


本事業区間（高場陸橋）を4車線化したことで、鉄道横断部に向かう車線で日常的に発生していた交通渋滞が約2.2km減少し、自動車交通の円滑化と経済活動の活性化が図られた。

事業効果アピール資料

【整備効果②】歩行者・自転車利用者の安全性向上

- 渋滞を避け、抜け道利用していた通過交通が約25%減少



- 現橋の余剰地を活用した安全な歩行者空間の整備



3車線分の幅員を有していた現橋について、4車線化後は2車線のみを使用となることから、この余裕が生まれたスペースを活用することにより、約2mの歩行者空間を確保した。

苦労や工夫等アピール資料

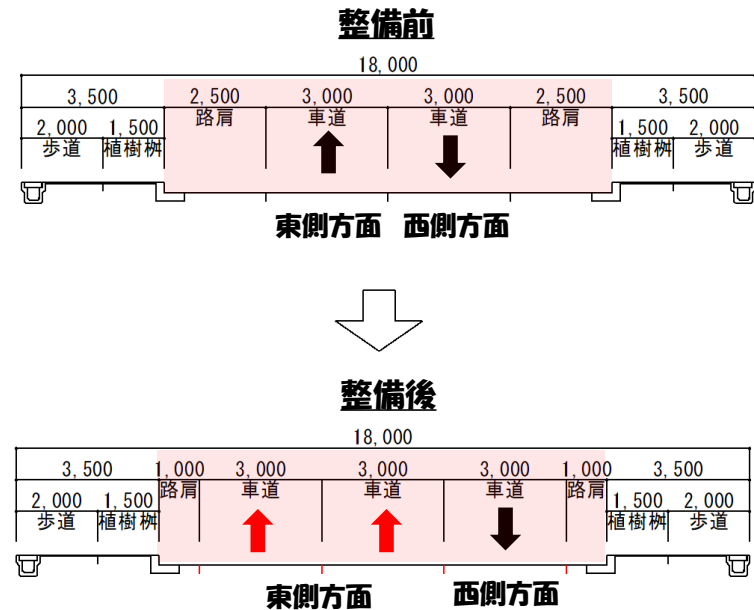
【事業過程の工夫①】合流区間の暫定3車線化

本事業区間から東側の4車線から2車線にシフトする区間において、円滑な合流に向けた車線の誘導や、合流時における新たな交通渋滞の抑制など、**道路交通の安全・円滑化に資するため、本事業区間の4車線化に合わせ「暫定3車線化」を行った。**

この取り組みは、既存の車道幅員の中において区画線の引き直しのみで対応するなど、費用対効果にも配慮した。



整備後（令和6年12月撮影）



苦労や工夫等アピール資料

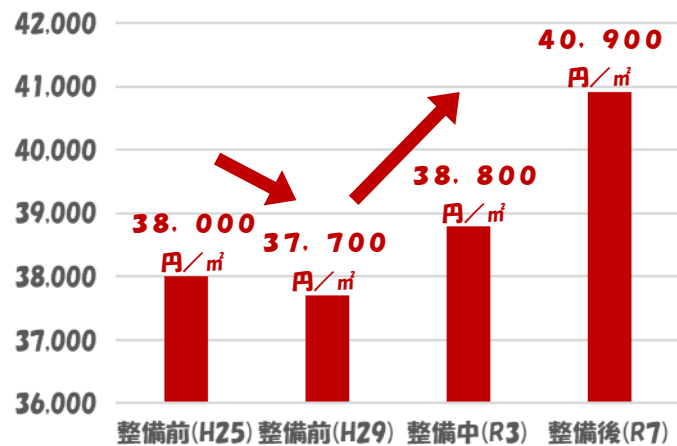
【事業過程の工夫②】相乗効果を期待した他事業との連携

市街地の骨格を担う本路線の整備に合わせて、新たな佐和駅東口の開設を目的とした東西自由通路・新駅舎整備と、土地地区画整地をはじめとする駅周辺の環境整備を一体的に進めることで、本市北部に位置する佐和駅周辺地区の**利便性向上のほか、拠点形成機能やまちの魅力が相乗的に向上し、宅地需要の高まりから地価も上昇し続けている。**

また、土地地区画整理事業と連携することで、本事業用地を速やかに確保することが可能となり、鉄道事業者の委託工事を抱えながらも、平成30年の事業認可取得から**約7年で事業を完了**させることができた。



周辺の地価公示価格（住宅地）が約**1.1倍**



ひたちなか市の4つの都市拠点



受賞歴・報道資料

- 新聞掲載：令和5年2月11日（土）
日刊建設新聞「12日から橋桁架設 東中根高場線の高場陸橋」
- 新聞掲載：令和5年2月17日（金）
茨城新聞「橋桁架設工事始まる ひたちなか 高場陸橋4車線化」